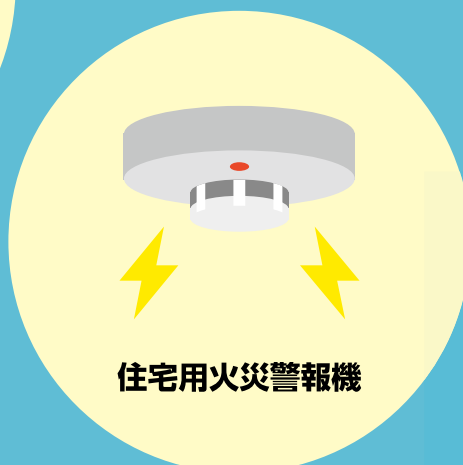
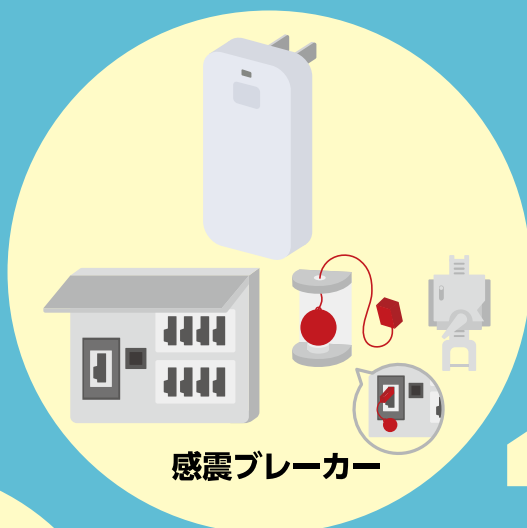


備えよう、いま



出火防止対策・

初期消火対策 



本書では、感震ブレーカーの設置など、
地震による火災への事前の備えや、
万が一火災が発生した際の対策等についてご紹介します。

目次

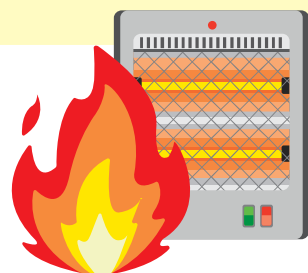
出火防止対策促進事業について	02
過去の大地震による火災被害	03
東京都の被害想定(都心南部直下地震)	04
地震時における火災の発生原因	05
電気火災の危険性	06
地震が発生した時の対応	07
初期消火の必要性	08
自助・共助の取組について	09
地震火災への事前の備え	10
感震ブレーカーの種類と特徴	11
感震ブレーカー使用上の留意点	12
万が一、火災が発生したら	13

出火防止対策促進事業について

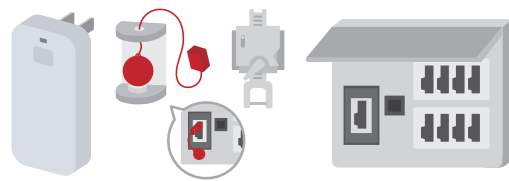


東京都では、首都直下地震等による被害を減らすため、
出火防止対策を進めています。その一環として、
「感震ブレーカー」の設置を推進しています。

地震による火災の約6割は
電気が原因とされています。



地震発生時に電気を自動的に
遮断する「感震ブレーカー」は、
電気による火災を防止するのに有効です！



今回お伝えしたいこと

地震火災の
危険性

家庭でできる
出火防止対策

自助・共助の
取組強化

事前の対策により、地震火災を防ぎましょう！



過去の大地震による火災被害



過去の大地震では、
建物の倒壊等だけでなく、
火災が被害を拡大しています。

1923年(大正12年) 関東大震災

お昼時ということもあり、
かまどや七輪から火災が発生。
台風の余波による強風にあおられて被害が拡大。

※内閣府 1923 関東大震災報告書 中央防災会議 災害教訓の継承に関する専門調査会報告書



1995年(平成7年) 阪神・淡路大震災

地震後、計285件の火災が発生。
火災は、特に地震動の大きかった地域を中心に地震直後に同時多発で発生。
さらに、多くの世帯で通電火災が発生し、
地震から1時間以上経過後も断続的に火災が発生。

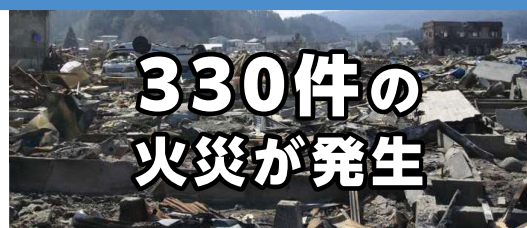
※消防庁 阪神・淡路大震災について(確定報)(平成18年5月)
※内閣府 阪神・淡路大震災教訓情報資料集



2011年(平成23年) 東日本大震災

津波が注目されがちだが、300件以上もの火災が発生。
がれきや津波による浸水により、
火点に接近できず、消火が困難に。

※内閣府 東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)について(令和5年3月)



2024年(令和6年) 能登半島地震

石川県輪島市河井町地内から出火、
約240棟が焼損する大規模火災となった。
地震の影響により電気に起因した火災が発生した可能性が考えられる。
(調査継続中)

※消防庁「輪島市大規模火災を踏まえた消防防災対策のあり方に関する検討会」
(令和6年3月)



東京都の被害想定(都心南部直下地震)

都内で最大規模の被害が想定される
「都心南部直下地震」では、
火災による大規模な被害が予測されています。

都心南部直下地震での火災による被害(予測)

焼失棟数 約120,000棟

負傷者 約10,000人

死者 約2,500人



※「首都直下地震等による東京の被害想定」(令和4年5月)



特に

「木造住宅密集地域」は

家と家との間隔がなく、道路が狭いところが多いため、
緊急車両の通行が妨げられ、
消防活動に支障を来すおそれがあります。

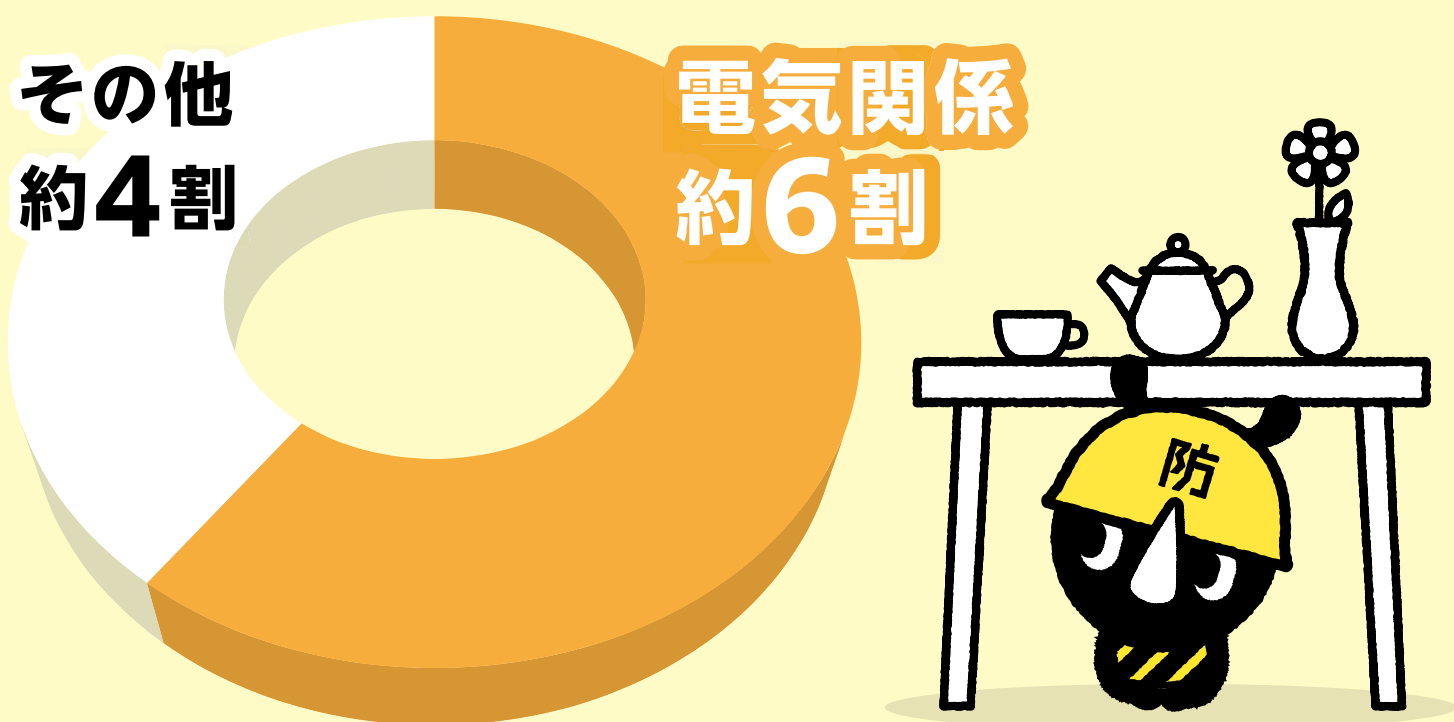


地震時における火災の発生原因

過去の大規模地震において、
原因の特定された火災のうち
約6割は電気に起因したものです。

大規模地震発生時における火災の発生原因

地震の揺れに伴う電気機器からの出火や、
停電が復旧し通電した際に発生する「通電火災」の発生が主な原因とされています。
住民が避難しており自宅にいない場合など、火災が発生し、
初期消火が行えず被害が拡大するおそれがあります。



*大規模地震時の電気火災の発生抑制に関する検討会報告書について(概要)

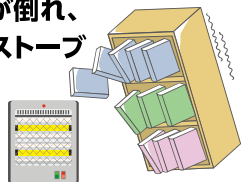


電気火災の危険性

電気火災の発生プロセス

電気火災の事例(その1)

地震で本棚が倒れ、雑誌が電気ストーブ周辺に散乱



停電した状態から通電し、ストーブが作動



紙類に着火、火災が発生

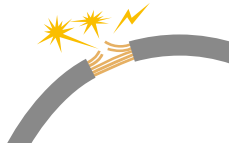


電気火災の事例(その2)

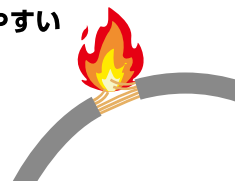
家具が転倒し、「電気コード」が下敷きや引っ張りで損傷



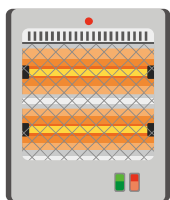
通電の瞬間、コードがショート



散乱した室内で、近くの燃えやすいものに着火

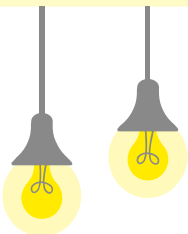


こうした機器も電気火災の原因になります!



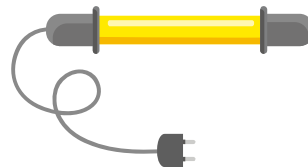
電気ストーブ

周囲の散乱物などによって、転倒時自動電源遮断機が機能せず、接触した可燃物に着火



白熱灯

転倒・落下などで接触した可燃物に着火



観賞魚用ヒーター

水槽が転倒し、ヒーターが接触した可燃物に着火

家具の転倒・落下・移動防止対策をする、

可燃物を近くに置かない等の対策のほか、

避難の際にはブレーカーを落とすことが大切。



地震が発生した時の対応

停電発生時にすべきこと

まずは電気ストーブなどの機器への対応が重要！

停電中は電気機器の
スイッチを切るとともに、
電源プラグをコンセントから抜く



停電中に自宅から離れる際は
ブレーカーを落とす



通電再開したら…

使用する前に、まずは安全確認！

- 通電が再開されたら、
- ・燃えやすいものが近くにいるか
 - ・配線やコードが損傷していないか
 - ・浸水などにより電気製品が破損していないかなど、

十分に安全を確認してから
電気製品を使用してください。

そして、感震ブレーカーの設置が、安心感を更に高めます。



初期消火の必要性

自分たちのまちは自分たちで守るという

「自助・共助」の意識が必要です。



大地震が起こると消防署も被災し、機能不全に…！

道路の寸断やがれき等で消防車が

到着しづらくなる可能性も…！

消防車両が進入できない狭い道路の地域や

木造住宅密集地域では、

スタンドパイプや**消防ポンプ**、**消火器**を

使った**初期消火が有効**です！

消火器の
設置箇所の把握と
取扱訓練も
忘れずに！

スタンドパイプによる消火

スタンドパイプは、消火栓に差し込み、
ホースと管そうを結合して使用する消火用資器材。
町会・自治会の会館や防災倉庫などに
配置されています。



消防ポンプによる消火

エンジンによって加圧し、ホースから放水する消火用機材。
東京都内には23区内だけでも約3,000台の
D級可搬消防ポンプが町会・自治会の会館や
防災倉庫などに配置されています。



※みなさんの身近でどこにあるか知っておくと、いざというときに有効です。

地域で開催する防災訓練には積極的なご参加をお願いします！



自助・共助の取組について

いつかやってくる“その時”のため 準備をしておきましょう

災害時には、自分の身は自分で守る「自助」と併せ、
町会・自治会や防災会などの地域コミュニティによる「共助」が重要です。

自助の取組

- ・日常備蓄
- ・家具類の転倒・落下・移動防止対策
- ・家族同士での安否確認の方法や集合場所などの確認
- ・避難場所や避難経路の確認 など

共助の取組

- ・日頃から顔の見える関係作り
- ・近所の助け合い
- ・地域の防災訓練への参加 など



阪神・淡路大震災では、共助で多くの命が助かりました。

日頃から挨拶を交わしたり、
町会・自治会や防災会に加入して活動に参加するなど、
ご近所との付き合いの輪を広げておきましょう。



地震火災への事前の備え

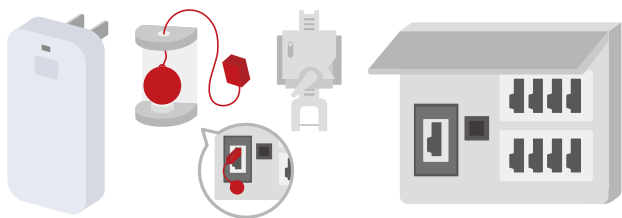
しっかりとした**事前の対策**で 地震による火災を防ぎましょう！

地震発生時は、火災が同時多発で発生し、

消火活動が十分に行えない可能性があります。

しっかりとした事前の対策があなたの家と、地域の人々を守ります。

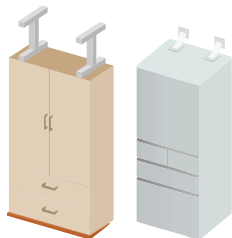
感震ブレーカーを設置しましょう



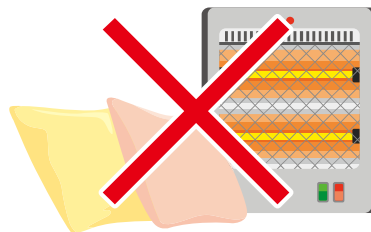
住まいの耐震性を確保しましょう



家具等の転倒・落下・
移動防止対策を行いましょう



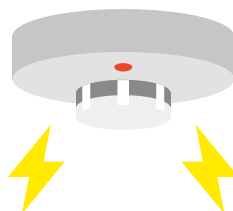
暖房機器の周辺には、可燃物を
置かないようにしましょう



住宅用消火器等を設置し、
使用方法について確認しましょう



住宅用火災警報器を設置しましょう



10年を目安に
本体交換を！



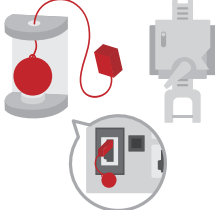
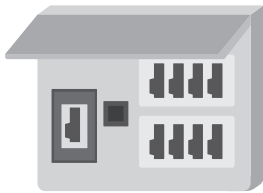
感震ブレーカーの種類と特徴

感震ブレーカーは、**震度5強相当の地震を感知し、電気を自動で遮断！**

大きな地震が発生したとき、外出中や緊急に避難する必要があるときなど、ブレーカーを落したり、電気製品のコンセントを抜くことができなくても、電気火災を防止する有効な手段です。



様々なタイプがあります。
**ご家庭の事情に合ったものを
備えましょう。**

タイプ	コンセント型		簡易型	分電盤型	
	特定機器遮断型	一括遮断型		内蔵型	後付型
イメージ					
特徴	内蔵されたセンサーが揺れを検知し、設置したコンセントからの通電を遮断	センサーが揺れを検知し、疑似漏電を発生させブレーカーを切ることで通電を遮断	ばねの作動やオモリの落下によりブレーカーを切ることで、通電を遮断	内蔵されたセンサーが揺れを検知し、主幹ブレーカーを切って通電を遮断	分電盤に感震センサーを後付け。分電盤に漏電ブレーカーが付帯している場合に設置可能
遮断範囲	選択した機器のみ		屋内全ての電気供給		
設置工事	不要	製品によって異なる	不要	必要	
遮断までの時間	なし	製品によって異なる		あり(3分程度)	



感震ブレーカー使用上の留意点

停電に備えて



停電時に作動する足元灯や懐中電灯等の照明器具を常備し、**夜間の照明を確保**しましょう。



医療用機器等を設置している場合、停電に対処できるように**バッテリー等を備え**ましょう。

復電時には



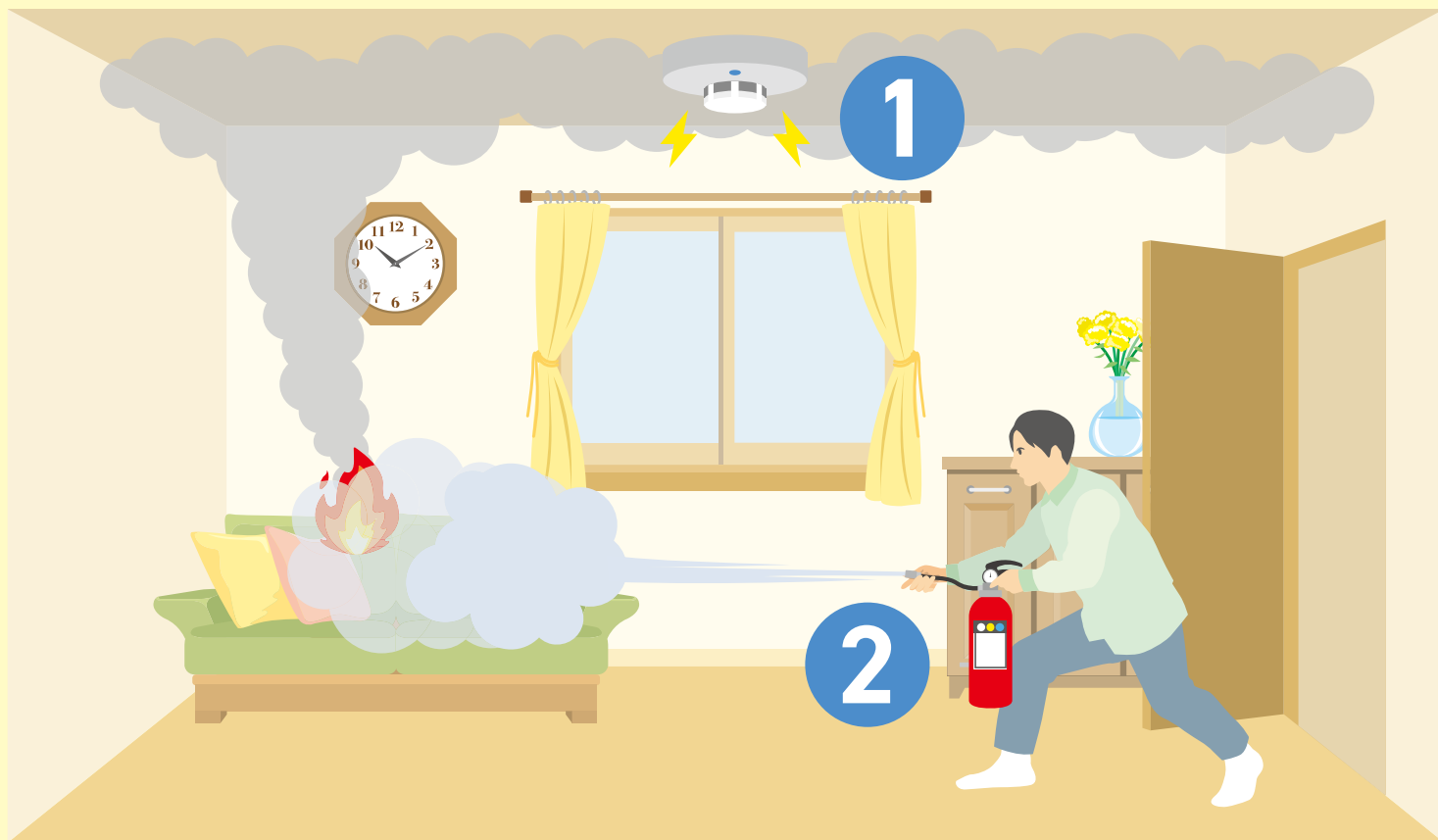
安全確保をした上で復電しましょう。

- ガス漏れや、屋内外の配線に損傷がないことなどを確認しましょう。
- 機器の周囲に可燃物がないか確認しましょう。
- 機器やコンセントに水がかかっていないか確認しましょう。

※感震ブレーカーを取り付けている場合、
感震ブレーカーをリセットする必要があります。
(取扱説明書をご確認ください。)



万が一、火災が発生したら



1 火が小さいうちに初期消火をするには… 住宅用火災警報器で早期発見

- ・熱や煙を検知し警報音が鳴ります。
- ・経年劣化するので**設置から10年で本体を交換**しましょう。

2 火災を発見したら… 消火器等で初期消火

- ・消火器を自宅に備えましょう。
- ・火が小さいうちに消火器やふる水で消火。
- ・姿勢は低く。出口に背を向ける。
- ・すぐ避難できるように出口は開けておく。避難時は閉める。



消火器の
レバーの下を
持って運ぶ



安全栓を
引き抜く
距離目安は身の危険が
及ばない位置



ホースを外す
火元に向ける



レバーを
強く握って
噴射

**出火防止対策と併せて初期消火対策等も実施し、
いざという時に備えましょう。**



メモ

Handwriting practice lines consisting of 20 horizontal dashed blue lines, each starting and ending with a small dot.



詳しくはこちらへ

東京都 感震ブレーカー

検索

<https://www.fire-prevention.metro.tokyo.lg.jp/>



備えよう、いま
一出火防止対策・初期消火対策一
令和6年6月版

編集・発行／東京都総務局総合防災部防災戦略課
新宿区西新宿二丁目8番1号

印刷／第一企画株式会社

登録番号(6)6

リサイクル適性 (A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。